

オール沖縄・日本共産党衆議院議員 沖縄1区選出

あかみね 政賢 国会だより

月刊 No.28

[九州沖縄ブロック事務所沖縄分室]

〒900-0016 那覇市前島3-1-17

電話.098-862-7521 FAX.098-862-7735

[国会事務所] 〒100-8981 千代田区永田町2-2-1

衆議院第一議員会館1107号室

電話.03-3508-7196 FAX.03-3508-3626

赤嶺政賢議員は11月18日の衆院安全保障委員会で、米軍嘉手納基地が汚染源となり、有機フッ素化合物(PFAS)の除去に必要な活性炭の更新費用を防衛省の責任で負担するよう求めました。



答弁する小泉防衛相



質問する赤嶺議員

予定される新しい活性炭への取り換えは「維持管理」に当たり、「施設整備」を対象とする同事業は適用できないとしています。16億円以上と見込まれる更新費用の全額が県の負担となり、水道料金への影響が懸念されています。

赤嶺議員の質疑で、①防衛省の事業で維持管理費を負担した例はある(防音工事後の電気代や公共施設の維持管理費の補助など)、②法律と同趣旨の交付金・

赤嶺議員は「基地への立て込み調査ができるためには何の責任もない県民が負担を負わなければならないのは余りにも理不尽だ」と強調。「PFAS検出と在日米軍基地との因果関係は明らかになつていない」などと開き直る小泉進次郎防衛相に對し、「因果関係が分からぬなら立入を認めさせるべきではないか」と批判し、汚染源が特定されるまでの同省による負担と日米地位協定の抜本改定を求めました。

補助金を予算措置として交付した例はある(市町村が対象の再編交付金と同趣旨の交付金を山口県に15.5億円で計40.8億円を交付)、③自衛隊施設周辺では防衛省が活性炭を設置し、汚染除去に取り組んでいる(海自下総航空基地や空自築城基地)ことが明らかになり、同省による負担は十分可能であることがわかりました。

赤嶺議員は「基地への立て込み調査ができるためには何の責任もない県民が負担を負わなければならないのは余りにも理不尽だ」と強調。▼学校給食の無償化の大切さを改めて思い知る▼野球のほうもチームに溶け込んできたようだ。ヒットを打った日は、「俺は長距離の主砲だ」と報告してくれる。▼勉強は国語が苦手だと言うので、じーじーは子どもが感動するような児童文学を薦めている。この間は「山椒大夫」の物語を聞かせたら、あまりにも長かつたらしくて途中で「もういい」とじーじーから離れていつてしまつた。続きは後のお楽しみだ。



この間の活動

- 宮城英和さんを偲ぶ会、とぐち政志北谷町長の事務所開きに参加（10月26日）
- 沖縄高教組の要請を受け懇談（同28日）
- フェミブリッジ沖縄主催の米兵による性的暴行事件の根絶を求める院内集会に参加、政府要請に同席（同30日）
- JAおきなわ青壯年部から生産資材の助成などを求める要請を受け懇談（同31日）
- 辺野古ゲート前県民大行動、全糖労第57回定期大会、我如古イチロー那覇市議の議会報告会に参加（11月1日）
- 小禄地区市民大運動会、沖縄80年沖縄連帯企画「松元ヒロ・ソロライブ&沖縄連帯トーク」に参加（同2日）
- 沖縄県功労者表彰式典・祝賀会に参加、「治安維持法と日本国憲法へ戦争する国づくりを許さない！」シンポジウムで挨拶。上原トキイチロー、まえだ潤両決起集会で挨拶（同3日）
- 古堅実吉元衆議院議員のカジマヤーのお祝いに参加。糸満市議選の糸満合同演説会で訴え（同9日）
- 沖縄県・JAおきなわより持続可能な畜産経営基盤の確立に関する要請を受け懇談（同11日）
- 沖縄県医労連から県内病院の現状などについて要請を受け懇談（同12日）
- 沖縄県の池田副知事から来年度振興予算に関する要請、沖縄県教職員共済会から全世代の社会保障制度の確立と教職員が教育に専念できる環境の整備を求める陳情を受け懇談（同13日）
- 沖縄県議会議員与党要請団から揮発油税軽減措置継続の要請を受け懇談（同14日）
- 沖縄県の池田副知事等から国保等の要請を受け懇談（同18日）
- 沖縄等米軍基地問題議員懇談会に出席（同19日）
- フェミブリッジ沖縄と懇談。沖縄県公務公共一般労働組合第25回定期大会で挨拶。西銘純恵、嘉瑞己両県議と離島フェアに参加（同22日）



離島フェアで宮里座間味村長と話す赤嶺議員ら（11月22日）

- 「具志堅徹さんの足跡」発刊記念のつどいで挨拶（同23日）
- 沖縄県さとうきび対策本部からハーベスターの補助など予算の増額を求める要請を受け懇談（同27日）
- 沖縄県社会福祉法人経営者協議会と懇談（同29日）
- 沖商連・役員研修会で講演。建交労沖縄県本部第27回定期大会で挨拶。まえだ潤糸満市議の激励会に参加（同30日）



ゆがふ製糖工場建て替えの予算増額などを求める要請を受ける「うりづんの会」の議員ら（8月4日）

本島唯一の製糖工場であるゆがふ製糖（うるま市）の建て替えを巡り、農林水産省が財政支援の拡充を検討していることがわかりました。

討していることがわかりました。

国が支援拡充を検討

ゆがふ製糖立て替え

同製糖は築60年を超え、老朽化による建て替えが必要となっていますが、事業費の財源確保が課題で、事業者や県、JAおきなわなどが国庫補助の上限額や補助率の引き上げを政府に求めています。

県選出野党国会議員は、「うりづんの会」にも8月と10月に要請があり、赤嶺政賢議員は11月27日に農水省から検討状況を聴取。



首相官邸前で訴える赤嶺議員（11月25日）

憲法違反の高市発言は撤回を 首相官邸前行動に500人

「台湾有事」は「存立危機事態になり得る」とした高市早苗首相の国会答弁の撤回を求め、11月25日、首相官邸前で緊急行動が行われました。憲法9条壊すな！実行委員会など首都圏37団体が呼びかけ、500人が集まりました。

「台湾有事」は「存立危機事態になり得る」とした高市早苗首相の国会答弁の撤回を求め、11月25日、首相官邸前で緊急行動が行われました。憲法9条壊すな！実行委員会など首都圏37団体が呼びかけ、500人が集まりました。

同省の担当者は単年度の補助上限額を20億円から30億円に引き上げるとともに、県や市町村が費用の一部を負担する場合に国が同額を補助する制度も補助率の上

限を5%から8・3%に引き上げることを検討中と回答。事業費全体の58・4%と見込まれていた国費負担は最大で68・3%程度にまで拡大する見通しです。

赤嶺議員は「私は戦後の生まれたが、爆弾で大きな山が崩れ、緑が全く失われた状態を体験してきた」と戦争で一変した沖縄の状況に言及。高市首相の発言の後、沖縄の新聞には「戦争は絶対に繰り返してはならない」という投書が相次いでいることを紹介し、「いくさーならんどー」これが沖縄県民の声だと強調。「沖縄を二度と捨て石にさせない」という世論も広がっていると指摘し、発言の撤回のために全力で頑張り抜く決意を述べました。

集会には、沖縄から歌三線奏者の桑江優稀乃さんも参加。「基地がある（島の）住民の命を無視した発言が行われている」「おかしいことにはおかしいと声を上げていきたい」と述べました。